

奈良市教育委員会
教育部 文化財課埋蔵文化財調査センター
電話 0742(33)1821

令和2年度春季発掘調査速報展の開催について

1 目的

平成30～令和2年度に実施した発掘調査のうち、2つ（富雄丸山古墳の調査、秋篠阿弥陀谷遺跡）の調査について取り上げ、成果を展示発表します。

2 会場・日時

奈良市埋蔵文化財調査センター 展示室前ロビー

令和3年2月15日（月）～3月31日（水） 土曜日・日曜日・祝日は休館
9時～17時 入館無料

※ただし、3月6日（土）は開館します。コロナウイスの感染の拡大により、奈良市の対策ガイドラインがフェーズⅣとなった場合には、会期を変更する可能性があります。

3 内容

（1） 富雄丸山古墳

富雄丸山古墳は奈良市丸山一丁目に所在する前期後半の造出し付円墳で、平成29年度の航空レーザー測量の結果、直径が日本一を誇る大型円墳であることが判明しました。この結果を受けて、奈良市教育委員会では平成30年度から、古墳の規模や構造を確認するための発掘調査を行っています。これまでの調査の結果、墳丘の規模が日本最大の109mであること、造出しの構造が他に例を見ない段築になっていることなどを確認しています。

富雄丸山古墳ではまた、市による発掘調査と並行して市民による発掘調査体験事業を行っています（今年度はコロナウイルス感染防止のため中止）。この発掘調査体験事業では、墳頂の埋葬施設の再発掘を行っており、市民の手によって副葬品であった斜縁神獸鏡の破片や、管玉、鍬形石、鉄鏃、鉄剣、鉄刀、銅鏃などが発掘されるなどの成果を得ています。

今回は、平成30年度と令和元年度の富雄丸山古墳の調査成果や、主な出土遺物をまとめて展示し、発掘調査体験参加者へも調査成果を周知する機会とします。

遺物 古墳時代：円筒埴輪、鱗付円筒埴輪、楕円筒埴輪、形象埴輪、斜縁神獸鏡、鍬形石、管玉、鉄器（剣・刀・鏃・刀子・小札・鋤先）、銅鏃、円盤形土製品

パネル 文字： 遺跡と調査成果の解説、遺物解説
写真： 円筒埴輪列検出状況、
図面： 位置図、遺構平面図

（2） 秋篠阿弥陀谷遺跡

調査地は奈良市秋篠町所在の西迎寺墓地が所在する丘陵上にあたり、奈良時代の墓1基と室町時代の墓4基、安土・桃山時代の墓1基などを検出しました。

西迎寺墓地には室町時代以降の石造物が存在しますが、墓地は整理され、江戸時代以前の石造物は現位置を留めていないものが大半です。今回の発掘調査では、土師器羽釜や瓦質土器深鉢な

どの室町時代の蔵骨器を検出し、古市城跡の調査などで確認されていた中世墓と同様の葬法で葬られていることが判明し、墓地の起源が室町時代まで遡ることが確実となりました。

調査地の東端で検出した火葬墓には、土師器小壺や小鉢、瓦質土器のミニチュア羽釜・風炉、犬形土製品などが副葬されていました。中世ではミニチュア土器を墓の副葬品とする例は一般的ではありませんが、近世では伏見人形などとともにミニチュア土器を墓の副葬品とする事例があります。近世墓ではミニチュア土器は、こどもの墓に多く副葬される傾向があります。

一方、ミニチュア土器を副葬する墓の近隣からは、こどもの戒名(「童女」)を刻む舟形五輪塔が出土しました。こどもの戒名を刻む石造物は、大和では16世紀後半以降に出現します。この舟形五輪塔は、ミニチュア土器を副葬する墓の直上で出土したわけではありませんが、その墓標であった可能性もあり、この時期の大和におけるこどもの墓の成立を考える上で貴重な事例といえます。

遺物	奈良時代：土師器甕・高坏（蔵骨器）
	室町時代：瓦質土器深鉢・蓋、土師器羽釜、圭頭板碑
	安土・桃山時代：土師器皿・小壺・小鉢・ミニチュア三足付羽釜、瓦質ミニチュア羽釜・風炉、犬形土製品、青磁碗、舟形五輪塔
パネル	文字： 遺跡と調査成果の解説、副葬品等の解説
	写真： 調査地全景写真、板碑検出状況
	図面： 位置図、遺構平面図

4 問合せ先

奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

〒630-8135 奈良市大安寺西二丁目281番地

電話 0742(33)1821 Fax 0742(33)1822

E-mail: maizoubunka@city.nara.lg.jp